

破壊したコンクリート舗装の現状分析

九州地方建設局 平野巖

この題目については、日本道路会議及び各方面で論じられてゐるが、建設省でも直轄技術研究会の要望課題として各地方建設局で同様な調査方針をもつて調査することになり、昭和31年度より作業を始めてゐる。まだ第一回の調査が漸く終ったところで結論を出す段階ではないが、以前より実施されていたコンクリート舗装版の亀裂の発生状況の観察と、最近施工されたコンクリート舗装版の中、破壊した版を上記調査方針により調査したのでそれらの概況を述べる。

1. 破壊状況の観察 コンクリート舗装の設計施工された年代により、その設計施工方法が相異してゐるので、それらの相異した舗装版の破壊状況を概説することは容易なことではないので、ここでは主として目地割と第一次亀裂の発生状況との関係を説明する。

1-1 目地間隔 10mの場合(図-1)

これは昭和14年～18年頃の施工で第一次亀裂と思はれる302の版について調査した。

図-1を正規分布と假定した場合

$$m + r = 485 + 96 = 581 \text{ cm}$$

$$m - r = 485 - 96 = 389 \text{ cm}$$

上記範囲に最初に発生する亀裂の半数が生ずることを意味する。

1-2 目地間隔 6mの場合(図-2)

これは昭和28年の施工例で、392の版について調査した。

1-3 目地間隔 5mの場合(図-3)

これは昭和26～27年の施工例で縦断勾配のある個所である。

2. 破壊したコンクリート舗装の設計施工概要

施工箇所 福岡県下町内昭和27～28年施工
目地間隔 3@6m 及び 3@5m 4@5m
巾員と版厚 7.5m (3.75×2) 20cm
勾配 横断 2% 縦断(最急) 2%
路盤 在来砂利道使用
施工延長と版数 3950m 1.376
(56)

破壊した版数 17(開角8°、横断8°、~~横断1°~~)

3. 調査事項 破壊した17版のうち、原因者のあるもの、盲目地の代りに亀裂の発生したもの及び類似なもの除外して8版について下記事項を調査した。

3-1 鋪装版について

- (1) 鋪装版は成るべく原形を壊さないよう、且つ路盤に損傷を与えないよう極力細心の注意を払い撤却する。
- (2) 撤却した版は各部分で版厚を測る。
- (3) 撤却した版より供試体をとり、曲げ強度の測定を行う。

3-2 路盤について

- (1) 鋪装版は撤却後、直ちに路盤のK-値、及び現場C.B.R.を測定する。
- (2) 路盤厚(砂利厚)の測定。
- (3) 路盤材料の物理的試験試料の採取

3-3 路床について

- (1) 路盤を取り除き、K-値及び現場C.B.R.を測定する。
- (2) 路床上の物理的試験材料の採取。
- (3) ソイルオーガーにより柱状図作成の試料の採取(深2m程度)

3-4 その他

- (1) 調査中の気象状況
- (2) 現地の地形、切盛土、排水の状況等

4. 調査結果

4-1 コンクリート舗装版について

- (1) 版厚(図-4)
- (2) 曲げ強度試験成績(表-1)

4-2 路盤について

- (1) 路盤厚(表-2)

特別に路盤土として築造されてゐないので、砂利厚は一様でない。特にNo.6, No.7, No.8は舗装版を撤却した際、舗装版

裏に撒布碎石が附着し、その裏全面積の約9割は路床土が露出
してて、路盤厚の測定はできなかつた。

(2) K-値 (表-3)

4-3 路底について

(1) K-値とC.B.R. (表-3, 表-4)

(2) 土質調査 (別図)

上質柱試験、突きめ試験、上質試験表

4-4 総括表 (表-5)

5. 破壊原因の検討。以上の調査結果より、破壊原因として、
次の事項が明らかとなつた。

5-1 路床路盤について

(1) 路床土 稼ぐA-rkに属する粘土 ($L.L = 20 \sim 60$, P.I. =
6 ~ 20)で良好とは云へないが、一部には極めて硬い粘土層があ
り、地下水位は 1.4m ~ 2m程度であつた。

(2) 路盤工 在来砂利道の砂利層は 15cm ~ 20cmあるだろうと
考へて、約 5cm の補給砂利を撒布して路盤工としたものである
が、稼ぐ厚さが不足してゐる。次に現鋪装と路盤の全厚とC.B.R曲
線より所要舗装と路盤の全厚を比較すると表-6の如く路盤厚の不足は著しい。

C.B.R. 設計曲線による舗装と路盤の全厚は、たわみ性舗装に対
するもので、コンクリート舗装の場合は 10%位減らしてよいと
云われる。
(土研 竹下技官)

5-2 コンクリート舗装版について

(1) 強度 長期(1年以上)曲げ強度は 50 ~ 60 kg/cm²と推定
され、不良とは認められない。但し施工時の缺陥として、版厚の
中央部に空隙を生じてゐる個所、作業中断打継個所、或は軟弱モ
ルタル層の存在等が認められた。

(2) 版厚 すべて不足してみて、その変動も大きい。特に版の中
央部が不足してゐることは、一考を要する。

(3) コンクリート強度と路盤支持力より版厚の考察、表-5の実

則値を使用して、各版毎の所要版厚を Sheets の公式により、次の要領で計算した。 表一ク

$$(A) \quad W = 5.2 t \quad S = \frac{\text{平均曲げ強度}}{z}$$

$$(B) \quad W = 8 t \quad S = \text{〃}$$

この結果より本路線の如く交通量 3,000 台/日以上且重交通の多い区間では、版厚は 22 cm ~ 23 cm は必要と推定される。それ以上の版厚は不経済でもあり、亦熱応力等の関係からもよくないのと、不足分については路盤工の改良に力を注ぐ方がよいと云われている。

(4) 目地について 1-3 で説明した如く膨脹目地附近に第一次亀裂が生じるのでダウエルの使用が必要である。亦盲目地についても、骨材の interlocking がきかなくなると 目地附近に最初に亀裂が生ずるから、ここにもダウエルの使用が必要となるであろう。

6. 以上総括すると路盤工が完全でなかつたこと、コンクリート打設時の不注意等分り切った結論しか云えないが、凡そコンクリート舗装の設計施工には、一応の規準はあるが、不確定な点も多いので、今後は維持補修と共に長期観測を続行して調査を行い、そして技術の向上を図りたいものである。

表一
1

	60~ (kg/cm ²)			回数
	平均	最大	最小	
N.O. 1	54.5	14.8	22.5	10
" 2	51.3	78.7	45.2	9
" 3	55.2	70.7	39.6	16
" 4	53.5	84.9	51.0	4
" 5	53.3	14.3	46.0	6
" 6	50.6	55.8	44.2	6
" 7	54.0	59.1	47.5	3
" 8	47.2	56.4	36.4	8

表一
2

	路盤厚(cm)			測定し た箇所 数
	平均	最大	最小	
N.O. 1	11	15	9	7
" 2	13	16	11	6
" 3	16	20	10	20
" 4	14	22	5	20
" 5	8	10	6	16
" 6	5			
" 7	5			
" 8	5			

N.O. 6, 7, 8の平均は最大砂利粒径とした。

表一
3

	路盤 K75		路床 K75		
	換算値(kg/cm ³)	換算値(kg/cm ³)	最大	最小	
N.O. 1	3.4	2.4	3.1	2.5	
" 2	4.0		2.8		
" 3	7.5	6.5	2.9		
" 4	5.1	3.6	3.3	2.4	
" 5	3.8	3.3	4.2	3.4	
" 6	7.7		5.4		
" 7	7.7		6.4		
" 8	4.7		5.3		

表一
4

	現場 C.B.R (%)	C.B.R(未浸4日) (%)
N.O. 1	9.3 9.2 8.2 3.6	3.6
" 2		
" 3	40.0 54.5 53.0	50
" 4	45.0 6.5	
" 5	44.4 47.3 49.3	40.0 40.0 23.0
" 6	85.0 80.0	45.0 42.3
" 7	41.0 49.0	17.0 14.0
" 8	38.0 34.0 31.0	

表 - 5

	コンクリート舗装厚(cm)		G.I.		路盤のK30		換算したK70		路床のC.B.R.		実測曲げ強度(%)					
	試験 舗装厚	最大	最小	路床	路盤	最大	最小	最大	最小	現場 最大	乱され たとき の試料 最小	木楔	最大	最小	平均	
		施工厚	施工厚			最大	最小	最大	最小				最大	最小	平均	
N.O. 1	20	20.2	15.7			7.51	5.35	3.4	2.4	9.3	3.6		3.6	79.3	30.6	54.5
2	"	20.0	18.0	17.0	0.1	8.79		4.0						78.7	45.2	61.3
3	"	20.0	18.3	13.5	0	16.60	14.2	7.5	6.5	54.5	40.0		50.0	70.7	39.6	55.2
4	"	20.0	17.5	10.1	0	11.20	8.0	5.1	3.6	45.0	6.45			84.9	51.0	63.5
5	"	20.5	16.5	14.7	6.7	8.32	7.2	3.8	3.3	49.3	44.4		23.0	64.3	46.0	53.3
6	"	20.5	18.0	15.5	0.5	16.84		7.7		85.0	80.0		42.3	55.8	44.2	50.6
7	"	20.0	17.5	15.4	0	17.00		7.7		49.0	41.0		14.0	59.1	47.5	54.0
8	"	20.5	15.5	18.6	3.0	10.30		4.7		38.0	31.0			56.4	36.4	47.2

表 - 6

表 - 7

	所要舗装と路盤の全厚(cm) * 盤の全厚(cm)	現舗装と路盤の全厚(cm)	路盤の不足厚(cm)
N.O. 1	62 (52)	31	31 (21)
" 2	70 (60)	33	37 (27)
" 3	70 (60)	36	34 (24)
" 4	60 (50)	34	26 (16)
" 5	48 (40)	28	20 (12)
" 6	33 (30)	25	8 (5)
" 7	26 (23)	25	1 (0)
" 8	33 (30)	25	8 (5)

	(A) 版厚(cm)	(B) 版厚(cm)
N.O. 1	21.29	26.41
" 2	19.67	24.39
" 3	19.83	24.60
" 4	19.12	23.71
" 5	21.20	26.29
" 6	20.48	25.40
" 7	19.82	24.59
" 8	22.06	27.36

* 表-4のC.B.R.値は使用せず、表-3のK-値より

同表により C.B.R. 値を求め、輪荷重 8t の場合、

() は輪荷重 5,2t の場合

図-1 10m版の亀裂発生
個所頻度曲線
 $D = 2.75m$ $R = 20cm$

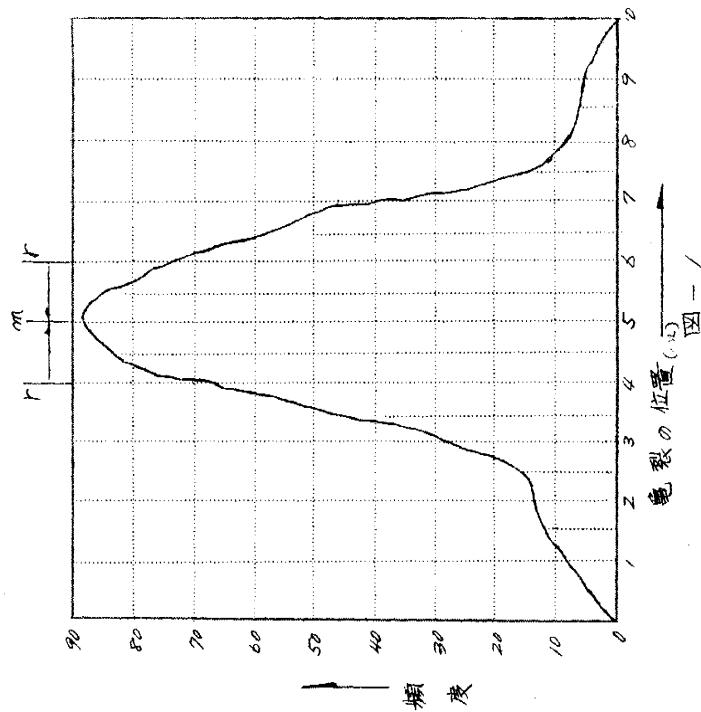


図-2

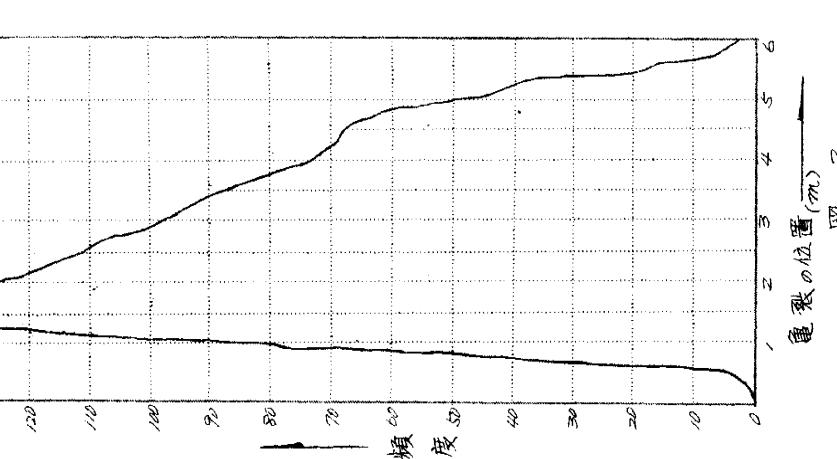
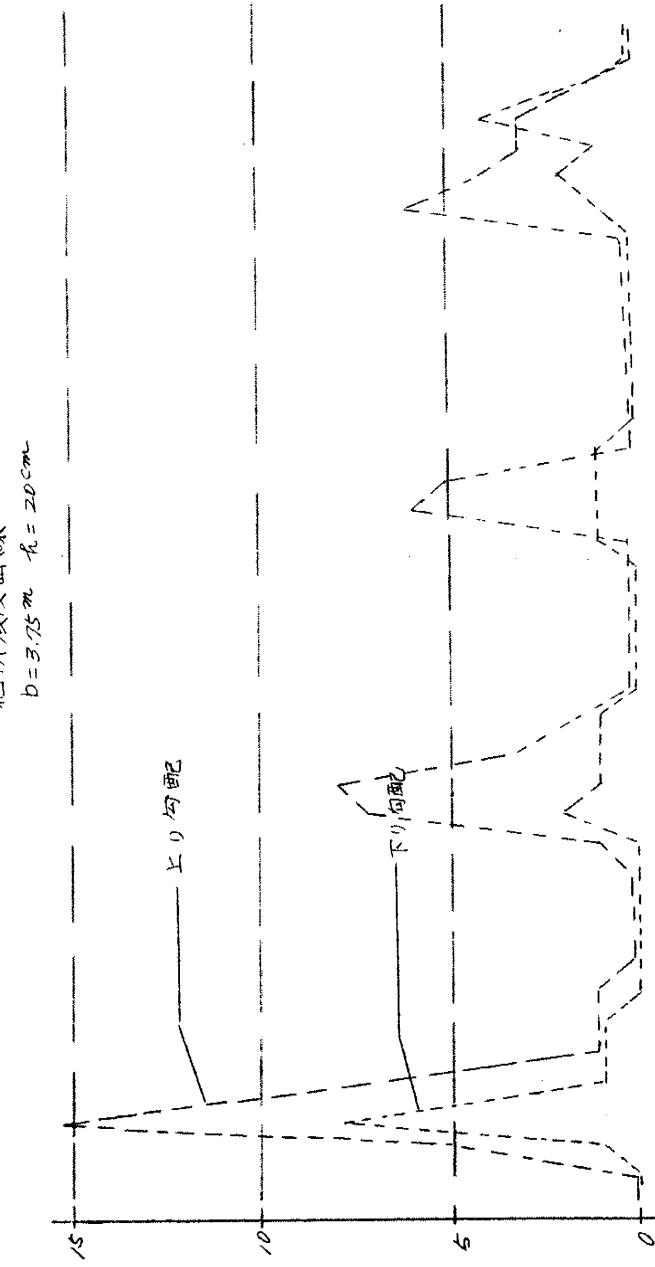


図-3 ④ 5m版の電気巻線
個所損傷曲線



(63)

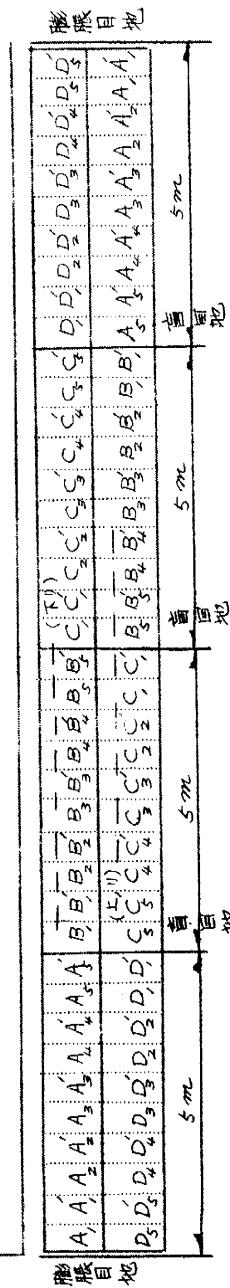


図-3

図-4 撤去鋪装版施工厚測定結果 (単位 cm)

